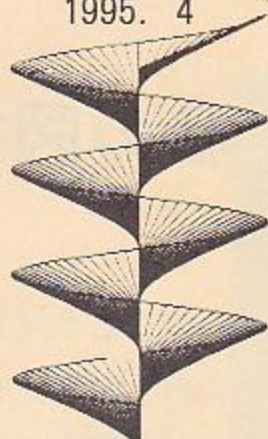


1995. 4



# はるかにくす

No. 37

大阪工業大学図書館報

## 消えるコピー

学生部長  
土木工学科教授

雄倉幸昭



その頃数カ月間、私は結核で臥していた。その5年前10才の時に母を同じ病気で亡くしていたので、これで自分も終わりかと非常に怖かったのを覚えている。寝ている状況も悪かった。隔離病棟は満員なので自宅療養していたが、注射等の治療上からある高さが必要、しかしベッドはない。そこで雨戸を外してその両端をみかん箱の上に乗せ、即席ベッドにしていた。みかん箱の数が足りず、両端に一個ずつでは至極不安定、寝返りを打つとひっくり返った。戸板に寝ている状況は死体運搬を連想させて、余計に恐怖感を煽った。

とにかく時間を持て余し、親の書棚の小説を手当たり次第、読んでいった。「女の一生」、「大地」、「楡の木の下で」等々…。



1954年奈良にて（前列左）

15才の頭には、半分は理解できなかったが、それでも天井の節穴を凝視して、不安に駆られるよりは遙かにましだった。これを機に小説を読む習慣は残った

が、翻訳ものは人名がカタカナでどうも具合が悪い。これは誰だったかなと数ページ前をめくると面倒だった。それで川端康成、志賀直哉、芥川龍之介、さらに深く考えなくても夏目漱石、石坂洋次郎や堀辰雄に変遷していった。

さて写真は、大学1年の時に下宿の仲間と奈良へ遊びに行った時のもの。写真で見るほど真面目でもなく、陰では悪さもよくした。しかしこの頃、図書館にもよく通った。別に小説を読むためでも、勉強が好きだった訳でもない。紙魚（しみ）が出てくるような図書館の書物は好きではなかったが、止むに止まれぬ訳があった。教授から命令される調査やレポート作りにはよく洋書が必要だが、今のようなコピー機はない。写しを撮るには1枚ずつマイクロ写真に撮って現像して貰った。これがまた結構高い。今の値段で1ページ300円位だろうか。20ページもあれば、悲劇だった。その上現像の質が悪く、何日か後にいざ使おうと出してみると、活字がほとんど消えてしまって読めない。代表で保管していたものは、その時袋叩きに合う。結局は何日も図書館にこもって、それをノートに写したものだ。さて諸君の時代、漫画本を写しても論文の稽古にはならんしなあ！卒業研究配属は小論文で…などはどうだろうか。

コピーの継ぎ貼りで、結構傑作ができるかもね。（水工計画学専攻 工学博士 香川県出身）

## 自己啓発を考えて

短大土木工学科

高寺 俊行

私にとって図書館は、時間を持て余した時によく利用した場所でした。私は歴史（日本史）に大変興味を持っているの



で、工大図書館の歴史文献・資料の多さに喜んでしまい、この中から自分に合った本を捜すのも、今となれば楽しかったことを思い出されます。それに、新聞・雑誌も多く揃っていますので、勉強疲れの時は気分転換に行くのも良いかと思えます。

結構気軽に入館できますから、世間では活字離れが叫ばれている中、自己啓発も考えて工大生の方々は、図書館へ足を運ぶのもいいんじゃないかと思えます。

本があなたを待っています！

## 貧乏学生の味方

経営工学科

小林 興史

書籍の購入が困難だった貧乏学生の私にとって、図書館は有意義な存在でした。テスト勉強、レポートの作成、卒業論文に至るまで殆どの文



献調査は図書館にお世話になりました。ところで図書館は単に図書の貸出だけでなく、色々なジャンルの雑誌を閲覧できることや、所蔵していない図書の購入願、他大学や国立図書館の文献複写の手続きなどができます。こんなことを知っていれば、違った利用法が見つかり、より身近な図書館になるのではないのでしょうか？

献調査は図書館にお世話になりました。

ところで図書館は単に図書の貸出だけでなく、色々なジャンルの雑誌を閲覧できることや、所蔵していない図書の購入願、他大学や国立図書館の文献複写の手続きなどができます。

## 私の図書館利用

建築学科

糸 広美

新入生の皆さん、御入学おめでとうございます。入学して生活に期待と不安で一杯であったことを思い出します。だが、図書館を利用することで試験、レポートはうまくい多かったので、調べ物は大抵解決でき、自習室での試験勉強していたので能率よかったです。空いた時間にはフラットと借りていました。簡単に面白く書かれたものから専門的

'94年度卒業

わたしは

図書館(本)

## 頼れるパートナー

短大機械工学科

若松 律子

私の入学した機械工学科は、1年生で工業実習、2年生では実験実習がありま

す。そのたびに何十枚ものレポートを仕上げ、提出しなければいけません。普通高校から入学した人にとっては、かなりしんどい問題だと思います。私の場合も機械のことは全く無



知で、どのような参考書を見ればいいのか悩んでいました。でも、図書館を利用することで、今まで分からなかった分野の専門用語等が分かり、レポート提出も楽にできました。私と同じような人もたくさんいるはずですよ。こんな時、図書館の利用法は、おすすめだと私は思います。

法

た頃はこれから始まる新し  
特に勉強のことは不安でし  
ったと思います。専門書が  
友人達と教え合いながらし  
ち寄り、雑学の本を見つけ  
なものまで数多くあったので色々な利用ができました。



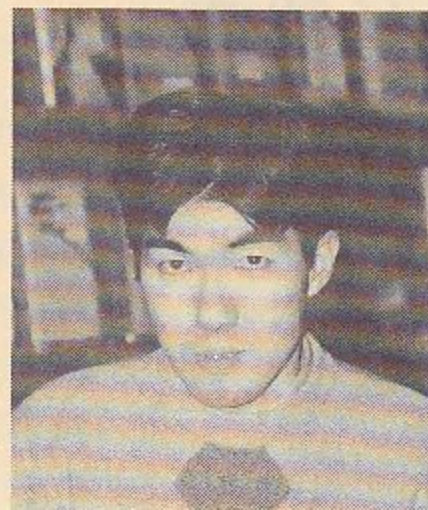
もうひとつの研究室

電気工学専攻

大学院博士後期課程

前元利彦

大学院時代の研究  
テーマは新型トラン  
ジスタの開発であり、  
私にとって図書館は、  
研究の最先端に触れ



ることができる場所の一つでありました。それは国内外の学術雑誌を自由に閲覧でき、論文や研究報告によって自らの研究分野における最新の情報を入手できたからです。また、分からないことができるたびに、図書館の工学系専門書を借りて、読み返していました。

図書館には人文・社会科学系の書籍も多数あるので、図書館を活用して皆さんの見識を高め、有意義な大学生活を送られることを期待します。

先生に聞く

にとって

とは…

情報のオアシス…

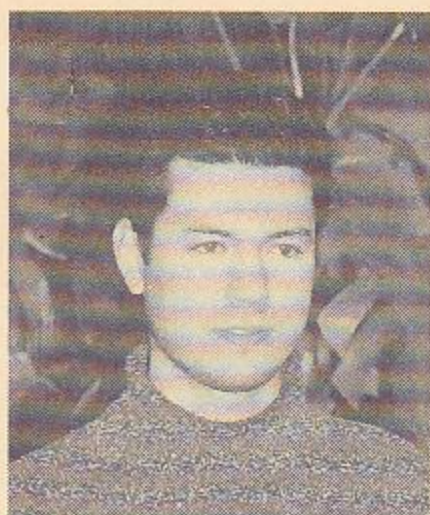
電子工学科

牧山 クリストス

まさに光陰矢のごとし、4  
年間に過ぎさりました。帰国  
したのも、工大に入学したの

も、昨日のように記憶に新しいです。面白くない授業もあれば、わかりやすく興味のある授業もありましたが、勉強が必要なのには変わりありませんでした。

日本語が不自由な私



に、洋書の参考文献は大きな支えだったので、図書館は私の情報のオアシスでした。

砂漠で水を求めていると同じような気持ちで図書館に知恵を求め、私の好奇心を満たしました。

素敵な空間

応用化学科

長尾 裕美

この学校の図書館におかれている本は、文学作品から専門書、また「地球の歩き方」などと、とても幅広いジャンルの本が沢山あるので、図書館の本棚をすみずみまで見ていくと、

おもしろい本に出会えるのではないかと思います。だから図書館にいと、ついつい時間を忘れがちになってしまい、私にとっては、とても居心地の良い空間だったと思います。



みなさんも自分なりの素敵な空間にしてください。

